

福 井 県 医 師 会

だより

第573号 平成21年(2009)3月



木場潟より望む白山

福井市 竹越 忠美

表紙写真説明：木場潟より望む白山

福井市 竹越 忠美

白山は霊峰といわれるごとく神々しさを漂わせている。ここ木場潟からの偉容も筆舌に
尽し難い。ご来迎も素晴らしいが夜の帳に佇む白山も不動の大パノラマを展開する。四季
折々に人々の心を魅了してやまない。表紙絵は厳冬の白山の絶景であるが、実際に登って
みると自然の厳しさに遭遇し、まさに人生そのものである。医療は患者さんとの心の触れ
合う場であり、絵を通して心の通う医療を提供していきたいと念じている。

醫 縫 録

福井大学病院の現状と将来展望

福井大学医学部附属病院長 山 口 明 夫



生まれ故郷であります福井に戻りましてはや17年が過ぎ、その多くを消化器外科医として診療や研究、教育に費やしてきましたが、昨年4月より医学部附属病院長としての立場で病院運営に携わっています。最近では医師不足による地域医療の崩壊、医療事故・医事紛争の増加など、医療界全体にかなりの逆風が吹き荒れています。このような状況下において、日本の大学病院は教育、研究、診療の中心的役割を果たすという使命の達成に汲々としているというのが現状であります。福井大学病院も県内唯一の特定機能病院ということで、開院以来25年にわたり、高度医療に関する研究・開発・実践を行いその役割を果たしてきました。しかし平成16年4月に独立行政法人化に移行して以来、診療、研究、教育に加えて、経営の健全化が欠かせない要素となってきました。全国の国立大学病院を見ましても、経営的にはかなり厳しい現状があり、赤字の大学病院が今後さらに増えていくことが予想されていますが、幸い福井大学病院は経営的にはほぼ順調に推移しておりまして、これも医師会の皆様のご支援のお陰と深く感謝しております。

卒後研修制度により大学病院、特に地方での研修医が少なくなり、医師の引き上げの原因になったとも言われています。厚労省も文科省もこの制度の見直しを考えているようですが、福井大学病院としましては、研修設備や研修内容の充実により、研修医の増員を図り、地域医療へのマンパワーの供給を今以上におこなっていきたいと考えています。私ども地域医療連携部のコーディネーターが先生方の施設を訪問させていただき、よく言われますのが、大学病院ならではのものを前面に打ち出してほしいという要望であります。大学病院ということになると、やはり先進医療の開発、実践とともに、質の高い医療人の輩出が大切なのはいうまでもありません。しかしマンパワー

が少なくなった今、診療にさかなくてはならない時間が一段と増えて、医師への負担が並々ならぬ事態に陥り、研究のマインドが下がってきたことも大きな問題であります。この打開策は一朝一夕で行えるとは思われず、地道な努力をしていくほかないと考えています。「最高・最新の医療を安心と信頼の下で」という基本理念に立ち返り、職員一丸となって診療に当たるとともに先進医療の開発にも力を注ぎたいと考えております。

さてこの4月には地域医療を担う人材の教育拠点としての臨床教育研修センターが開設されることになりました。メインホールやセミナー室の他に多くのシミュレーターを設置したスキルラボなどが備わっています。卒前卒後教育のみならず、大学が持つ最新の医療情報、先端医療技術などを伝えて、地域の医療関係者との交流促進を図ることも大きな目的としておりますので、医師会の先生方にも是非ご利用していただくようお願い申し上げます。またこの研修センターの建設に当たりましては、医師会の多くの先生方々からも募金をいただきましたことを、厚くお礼申し上げます。

病院は近々再整備を予定しておりまして、揺ぎなき地域診療拠点の構築、実践重視型教育環境の充実、福井ブランドの先進医療の開発・実践、快適・安全な医療空間の提供、堅固な経営基盤の構築をコンセプトとして計画を進めています。今後も優れた地域医療人を輩出するハイクオリティセンターとしての地位を確かなものとしていきたいと考えていますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。